

事業者における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 2年 3月

障がい者支援サービスいろは 放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓				
	②	職員の配置数は適切である	✓				
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		✓		・施設内にエレベーターが設置しているが、段差がある箇所もあり可能な限りの改善を行い対応している	
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		✓		・もっと児童のアセスメントが取れ、障がい特性の理解をスタッフが深める必要がある。 ・新規スタッフへのスキル向上に繋がる指導も行っている。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓			・実施したアンケートを確認し、現状を把握したうえでの対応を行っている。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			・法人ホームページに掲載している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		・第三者委員は設けていない。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓			・年間の研修案内を研修担当者が年度初めに配布している。 ・社内外の研修に参加、研修の報告を受け、参考にしてている。	
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	✓				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている		✓		・少しずつ分担を行っているがまだ固定したスタッフが軸になっている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓			・日々の個別スケジュールが同じ内容にならないように配慮している ・子ども達、それぞれに合わせたスケジュールを使っており、固定化した方が良いおさんは考慮している	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	✓			・長期休暇での外出等に向けて平日の外出活動を活用し下見を行っている ・外出等を取り入れルールやマナーを経験してもらう活動を取り入れている	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	✓			・1対1→自立エリア→共有、小集団エリアでの流れを意識している ・それぞれの社会性やコミュニケーションの発達段階を考え、その時に合わせた集団活動を設定している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓			・支援開始前にミーティングを行っている ・ミーティングを実施しているが当日や前日就業前に決定することがある場合は、細かい部分まで全体で周知できていないことがある。	
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓			・翌日の支援開始前にミーティングを行っている ・気づきのある特定のスタッフとは行っている ・前日の振り返りを朝礼時に徹底している。		

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓			・ミーティングの際、日誌に記録を取っている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	✓			・日頃から児童の行動を見守り、必要に応じて支援方法の再検討を行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	✓			
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓			・サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者及び主任スタッフが参加するようにしている。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	✓			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		✓		・対象となる児童がいない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	✓			・情報のシートが統一しておらず、実際の児童の様子を確認させてもらうことを重視している。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	✓			・相談支援事業等と連携し、情報を整理し、他の事業所に情報提供を行うようにしている。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓			・研修等の参加や交流機会がある際には参加し、連携作りを行っている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	✓			・近隣の児童館の利用や図書館の利用を行っているが交流する機会は少ない。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		✓		・支援研究会などにスタッフが参加できるようにしている。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓			・送迎時に事業所での様子や家庭での様子を共有して場面での違いがあることは話合いに繋げている。 ・連絡帳、送迎時の伝達を行い、支援の方向性をスタッフで共有している。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	✓			
	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓			・利用契約の際に書類に沿って説明を行っている。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓			・送迎時等で、相談があった場合は、その場での対応や事業所に持って帰り対応をしている。

保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			✓	・保護者会を実施していない。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	✓			・いつまでに解決できるのか期日を設定したり、具体的な説明を意識している ・第三者委員については契約時に説明している。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		✓		・会報の作成はしていない。 ・SNS等を活用し、情報公開するようしている。
	③⑤	個人情報に十分注意している	✓			・同意を得ている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓			・本人のスキルに応じたコミュニケーション支援、保護者とも直接のやりとりまたはメールの活用を行っている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			✓	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	✓			・ご家族説明の徹底、スタッフの理解度の向上に今後も努める。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓			・避難場所（児童館）に避難だけでなく、定期的に行く機会を設けている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓			・虐待防止研修に管理者が毎年参加し、資料の周知を行っている。 ・職場内研修のテーマとして今年度は研修を実施した。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	✓			・障がい特性に応じて検討を行い、必要に応じて説明や記載を行うようにしている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		✓		・現在、対象となる児童がいない。今後のためにも研修機会の確保が検討される。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓			ヒヤリハットについて記録化を行い、周知している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。